

ROTARY CLUB OF

KANAZAWA-NORTH WEEKLY



金沢北ロータリークラブ

例会日：木曜日 12:30～13:30

例会場：卯辰山・ホワイトハウス

事務局：金沢市尾山町9-13・金沢商工会議所

TEL <0762> 63-1151

会長：越野 民男 幹事：浅田 豊久

情報委員長：清水 忠

1975・7月10日

第44号

御 挨拶

会長 越野 民男



ロータリー歴10数年のキャリアを持ち、社会的にも知名度の高い初代山田会長の後を引き継ぎ、その器でもない私が第二代目の会長をお引き受けするに際し、身の引締る思いがすると共に、果してこの一年間当クラブの名誉を傷つけないように勉める事が出来るだろうかと言う危惧感で一ぱいです。然し中島特別代表の「はしかと同じ、一度経験せねばならない」と言う言葉を卒直に受けとり、1975年度の会長をお引き受けする事を決意致しました。

私の抱負に就いては先日の会報を通じ発表させて頂きましたが、当クラブも創立以来1年9ヶ月を経てある程度の基礎も出来上り、全会員は非常な熱意をもってクラブ運営に取り組んで居られる事は既に出席率100%を一年以上継続して居る事によっても明らかであります。私はこの優れた流れをその儘維持し、より内容のある北RCにする事を第一の念願と致します。勿論クラブの活動は会長一人の創意によって律せられるものではなく、全会員の英知に基き、その熱意と努力によって実を結ぶものと存じます。

兎に角向う一年間、我々は真のロータリー精神を体得すると共に真のロータリー活動を推進すべく精進致しましょう。浅学非才の私に向う一年間何卒御援助下され、優れた当クラブの活動を更に実のあるものに致したいと思ひます。

私の職業奉仕

土原 一二



私のところでは午後6時を閉院時間としていますが、その間際、おそらく各家庭では夕飯の準備に忙しい時と思う。そんな時に限って子供が怪我をしたり、火傷をするものらしい。「先生大変です、大変です」とわめきながら、顔中血だらけの子供を引抱えて、診察室へ走り込んで来る母親の姿は、私には決して珍しい光景ではない。以前は何だかさだかな!!とっていたが、近頃はちょっと考えが変わった。それは子供を持ってみて、孫を持ってみてという気持ちの外に相手の身になってというロータリーの精神が、意外にも強く働くのではないだろうか、自分だけの社会でない自分ひとりの国家ではないという感が最近特に強い。局所麻酔のためか、創口の止血、縫合がスムーズに行われて、余り痛みを訴えなかった吾が子の姿に一安

心の母親を見て、この時ばかり医者になってよかった。外科医になってよかったと、つくづく思う。

又先日、深夜の零時半頃、起こされて患家へ行くまでは、正直なところ不満な気持ちがあった。皆が明日の活動に備えて安眠している時に、なんで私ばかりが生命を削られるのかと、然し明け放たれた玄関の前で、私を待っている父親の姿を見て、私の心の中のもやもやがふっとんだ。深夜の通りまで聞える患者の呻き、悶えは森閑とした周囲につよく反響していた。家族は皆じっとして居れないのは当たり前だ。診察してみると産後の心臓発作であった。幸い強心剤が奏効したのか、はた亦安心したのか、ドラマチックによくなって家族は勿論私もほっとした。こんな時も医師たることに満足した。

然しこんなことばかりではない。昨年親友を直腸癌で失ったときのショックは忘れられない。日頃健康な彼がただ大便が出にくいの訴えだけで、内服薬をいろいろ飲んでいたらしい。相談を受けたとき私は直ちに肛門に指を差し込んだ。診断はすぐついた。早速紹介した大学病院で手術をして人工肛門を作ったが、既に方々に転移していて、八方手をつくしたが3ヶ月とは居れなかった。最後の20日間は私自ら抗癌剤や栄養剤を彼の細い静脈内へ点滴注射をやってみたが駄目だった。彼は人工肛門のいたましい姿をととても気にしていた。無論本人は再起を信じて、こんな姿で歩けるかいと、いつも同じことを質問されたのには、まいった。もっと早く気がつけば、相談してくれればと愚痴も出るがほんとに惜しいことをした。医局時代に同じ病気で10年近く生存した事例を経験したのと思うとたまらない。あれから一年、お盆には裏の畑の手作りの花でも彼の墓前に供えたい。

以上は私の仕事のほんの一部に過ぎないが、今後も引続き自分の仕事を大切にしていきたいと思う。そうすればおのづとロータリーの職業奉仕につながるのではあるまいか。

以上

ロータリーは 奉仕……Service
友情……Fellowship
利益……Profit

この3者の調和の上に成り立つ。という考え方もある。

(ロータリー文献から)

R.Iモントリオール大会に出席して

若野 三朗

ロータリーの友誌⑤の「モントリオールは招く」を読んでいて、急に思いついてモントリオールに行く事にしました。旅券と種痘がギリギリ間に合って、6月6日羽田を飛びたちました。一行35名。同誌旅行社の広告に応募した東京、横浜、茨木、埼玉、岐阜南等々のロータリアンとその家族です。

アンカレジを経て、シカゴで一泊し、ミシガン湖畔をドライブしてエバンストンへ行きました。ロータリー国際本部はロータリアンのメッカとばかり期待して行きましたが、静かな住宅街の中の二階建、かなり広い邸宅風の本部は、生憎日曜日でヒソソリと閉館され、内部を窺がうすべもなく、玄関と周辺を見物して帰りました。

シカゴからバッファロー市に飛び、市内を通過してナイアガラで国境を越えました。バッファロー市は金沢市と姉妹都市であり、是非バーナー交換をと思いましたが時間がなくて果せませんでした。

トロント空港から、モントリオールへ到着したのは夕刻でした。大会の始まるモントリオール、フォーラムへ直行して、既に旅行社の方で大会登録は済んでいるので、バッジを胸につけ開会式へ入場しました。フォーラムはアイススケート競技場とか、収容人員3万ぐらいか、今回の各国参加予定者1万5千は楽に収容出来る巨大なスタジアムです。

日本人登録者1,500と聞きましたが、モントリオールRC会長の開会宣言の後、各国国旗の入場では日本国旗に対する拍手がカナダ、アメリカに次いで数多く賑やかでした。RI会長ロビンズ氏の軽妙な開会のことばと紹介の後、長い記念講演があり、仏語、日本語、スペイン語で同時通訳されました。私は幸にして最前列に並びイヤホンで日本語訳に聞きいりましたが、演説内容は哲学的で、直訳的で、英語のボリュームが高く、余りよく理解できませんでした。

Brief Report of the Couventionをみようと思っています。唯キョトキョト会場を見廻していましたが、隣席の米人夫妻とスッカリ仲良しになり、身振り手振り片言の英語で意志疎通したり、夜間室内8ミリが割によく撮れたのが幸いでした。

この後、会場ではモントリオール、シンフォニー、オーケストラのコンサートがありましたが、演奏なかばに真夜近く、ホテルへ帰りました。



ロータリー国際本部横庭にて

翌9日から第1回本会議とともに公式行事が行われ、別に晩饗会、ダンスパーティー、技芸職人の製作実演即売会やホーム、ホスピタリティー（家庭接待）など盛沢山の諸行事があったようです。バッジをつけていると地下鉄もバスも無料のようでした。私はバーナー交換のため、クイーン・エリザベスホテル（モントリオール最大のホテル）の大会事務局へ二度行きましたが、後はすべて割愛して、モントリオール郊外の森と湖と牧場を歩き廻ったり、古都ケベック市の城内の石畳の細い道を軽二輪馬車でポカポカ、ガラガラ廻ったりして過ごしました。11日迄モントリオールにいましたが、大変有意義で楽しい旅行でした。

明年の年次大会は、米国ニューオーリンズ市6月13日～17日です。皆さんと一緒に又、参加したいものと思っています。

